

【学会紹介】 日本歯科産業学会

日本歯科産業学会は歯科関連企業の方々と大学の研究者。そして開業歯科医との学術交流を通じて得られた知見を患者さんのQOL向上に寄与することを目的としています。日本の歯科関連企業と大学研究者の連携のおかげでわが国の歯科器材は世界的にも最高レベルにあると言えます。世界中の歯科医療の現場で日本製の歯科器材が愛用されていますが、「こんな材料があればいいな」とか「海外のあんな製品はできないのか?」といった声は絶えません。このようなニーズに対応する底力が日本の研究開発に関わる人々にないわけではなく、産学連携で研究開発が続けられています。しかし、新しい歯科器材の恩恵を受ける前に「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」いわゆる改正薬事法の販売許可をクリアする必要があり、画期的な新器材ほどクリアすべきハードルが高くなり、本来ならば適応可能範囲がもっと広そうなのに限定的な適応に甘んじていたり、患者さんがすぐれた新製品の恩恵をもれなく受けにくい場合があったりします。改正薬事法により安全性を担保しつつ、患者さんのQOL向上に寄与できるよう、産官学連携で解決することも本学会の大きな目的です。一方、日本の健康保険制度は新しい器材を収載し広く新器材の恩恵が受けられるようになってきましたが、本学会ではそれらを評価するために保険収載の器材にも注目しテーマとして取り上げています。

会長 川原 大

【学会紹介】 美容口腔管理学会

美容口腔管理学会(Academy of Cosmetic Oral Care, ACOC, 通称エーコック)は1999年に「ブリーチング研究会」として活動を開始しました。その後、口腔の形態美・色彩美が心の健康につながることに、また、口腔機能と全身の健康の関係が重要視されている中で美容口腔管理の実践が健康長寿につながることから、広範囲な学会活動を目指して2001年に「Academy of Cosmetic Oral Care」を設立し、さらに2006年に和名を「美容口腔管理学会」といたしました。初代会長は故川原春幸大阪歯科大学名誉教授、第二代会長は久光久昭和大学名誉教授です。

2001年第1回学術講演会の開催以来、年1回学術講演会を開催しており、2017年11月18~19日、ホテル金沢において第17回学術講演会(大会長 扇谷義郎)が開催されます。また機関誌「The Journal of Cosmetic Oral Care」を年1回発行しております。さらにACOC Fellow、美容口腔管理認定士(認定医、認定歯科衛生士、認定歯科技工士、認定コーディネーター)といった各種認定制度も充実しています。本学会では、科学的根拠を持った美容口腔管理に関する新しい知識・技術を国民に発信して、国民の健康の維持・増進に寄与していきたいと考えております。今後ともご支援とご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

会長 斎藤 隆史

【学会紹介】 日本舌側矯正歯科学会

日本舌側矯正歯科学会(JLOA)は、日本での舌側矯正を発展させていくため、会員相互が意見・技術を交換して、より高度な術式を習得するための場を提供することを目的として、1988年に結成されました。現在、会員数は700名を越える全国規模の先生方が活躍中であり、来年2018年には設立30周年を迎えます。

本会の年間活動では、年1回の学術大会、総会や舌側矯正のタイポドントコースの開催および学会雑誌の発行をおこなっています。

また、対外活動として、韓国舌側矯正歯科学会(KALO)との2年毎のジョイント大会、またアジア各国の舌側矯正学会と共催する4年毎のアジアリングミーティングなどの活動を行い、国境の垣根を越えた舌側矯正歯科の啓蒙、普及活動を行っております。

会長 中島 健

【学会紹介】 日本デジタル歯科学会

本学会は、2010年3月、東京都市センターホテルにおいて「日本CAD/CAM歯科学会」として設立しました。当時は「歯科用CAD/CAMシステム」もまだ黎明期でしたが、その後国内外でスキャナーや加工装置が開発されるに伴って急速に普及してきました。一方では、CTをはじめとする画像診断、各種検査機器、電子カルテなどのデジタル化が進み、歯科医療の臨床では、CAD/CAMシステムだけでなく、多彩なデジタル機器が活用されるようになってきました。そこで、2014年に「(一社)日本デジタル歯科学会」に名称変更し、2017年度までに全国各地で8回の学術大会を毎年定期的で開催してきました。現在、会員数650名、とりわけ学会をサポートしていただける賛助企業が50社にのぼり、歯科におけるデジタル化への注目度の高さがうかがえます。本学会は、歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士そして企業各社の研究開発者や営業担当者らが一堂に会して同じ目線でデジタル機器の臨床活用、新たな機器や材料の研究開発などについて積極的な姿勢で意見交換しています。2015年には、チューリッヒで「国際デジタル歯科学会(IADDM)」の設立会議が開催され、日本は設立メンバーとして参画しています。2019年10月には奈良において5th IADDMと「第10回日本デジタル歯科学会」を開催する予定です。まさに「温故知新」最先端のデジタル機器、材料の研究や臨床応用の成果を古都「奈良」で国際色豊かに企画しようと考えています。今後も幅広く、他学会とも密に連携しながら日本の歯科医療の革新的な一翼を担っていきたいと思っています。

理事長 末瀬 一彦

【学会紹介】 日本一般臨床医矯正研究会 (JOSG)

当会は矯正治療に興味をもつ歯科医師(一般臨床医・矯正専門医含む)全国約550名のグループです。1981年(昭和56年)に発足し、今日まで36年もの歩みを続けております。もともと各務肇先生(当会顧問)の永久歯非抜歯咬合誘導の新理論を受講した先生方が設立され、アメリカで開発された3D装置を使った矯正治療法等を導入した各務先生の臨床理論を基に人々の不定愁訴のない健康(舌と酸素を考慮した咬合等)とその維持を目的として発展中です。現在は3代目名誉会長に福原達郎先生を、また顧問として各務肇、小林義典、山口秀晴の諸先生方と共に会の企画を立て、毎年春に総会・学術例会と秋に学術例会を開催し、年1回機関誌を発刊し広く会員への情報伝達を行っています。

現在は子ども10人のうち7~8人が不正咬合、或はその予備軍です。この“不正咬合洪水時代”に結果処理にばかり目が向けられている現状を鑑み、その予防的な対応をすることの必要性こそが、現在から未来に向けて大切であるとの考えに至っています。そして、その責務を担うことこそがGPである当会会員のあるべき方向と考え、今後不正咬合の予防に向け一層の研鑽を図るとともに、その普及に向け頑張りたいと考えております。

5年前より2種類の認定医制を設けました。現在54名が認定されておりますが、会員にとって一つの目標であると共に、意識の向上も図っております。

会長 小佐々晴夫

日本歯学系学会協議会 第8回シンポジウム開催のご案内

下記の通り、シンポジウムを開催いたします。どなたでもご参加いただけますので、多くの皆様のご参加をお待ちしております(事前申込不要)。

テーマ:「口腔健康管理」

日時:平成29年11月12日(日)13:30~17:00

会場:昭和大学旗の台キャンパス 1号館 7階 講堂

演者:米山武義先生(米山歯科クリニック院長)、
菊谷 武先生(日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック院長)、
大西徹郎先生(市立池田病院歯科口腔外科主任部長)、
金久弥生先生(神戸常盤大学短期大学部口腔保健学科准教授)

歯学協ニュースに対するご意見、ご要望等ございましたら、日本歯学系学会協議会事務局までご連絡下さい。

(一社)日本歯学系学会協議会 事務局 〒170-0003 東京都豊島区駒込 1-43-9 駒込 TS ビル (一財) 口腔保健協会内

FAX: 03-3947-8341、E-mail: gakkai18@kokuhoken.or.jp